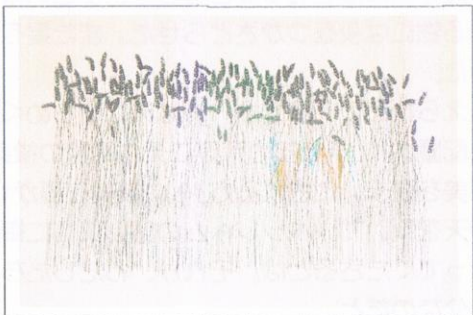


2日（金）ルツ記 1:20,22

ナオミは彼女たちにこう言った。「私をナオミと呼ばないで、マラと呼んでください。全能者が私をひどい苦しみに会わせたのですから。」こうして、ナオミは、嫁のモアブの女ルツといっしょに、モアブの野から帰って来て、大麦の刈り入れの始まったころ、ベツレヘムに着いた。

ナオミはモアブの生活を、ナオミ（快い）ではなく、ラマ（苦しむ）だったと語ります。飢饉を逃れて行ったモアブで、ナオミは夫も二人の息子も失ったからです。そしてベツレヘムに戻ってきましたが、異邦人の嫁ルツはナオミについてきたのです。時は春、大麦の収穫の始まりが、二人の祝福の始まりのように、二人の人生は大きく回転します。

苦しみと悲しみの中に主が来られたからです。



3日（土）ヨシュア 23:14



あなた方は、心を尽くし、精神を尽くして知らなければならない。あなたがたの神、主が、あなたがたについて約束したすべての良いことが一つもたがわなかったことを。それは、一つもたがわず、みな、あなたがたのために実現した。

わたしたちの現実も、ナオミとルツの時代と同じように不安や悲しみに沈む罪深い世界です。周りは、世界はますます多様化し、破壊が進んでいく。しかしここへ、救い主が来られる。クリスマスは来る。わたしたちは失われた者たちだから、救いを受けなくてはならない。今年もクリスマスが来る。

みことばと共に行くアドベント

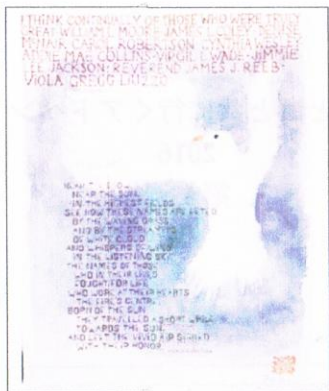
2016

第1週



(絵・ベン・シャーン)

11月28日（月）出エジプト記 3:7,8



主は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。

今週から典礼色が紫に替わりました。悔い改めの色です。

かつて、主が民のうなじのこわさにいっしょに上らない、と仰せられたとき、彼らは飾り物を外しー悔い改めーました。それで主はいっしょに上ってくださいました。

クリスマスが来る。わたしたちは御子をお迎えするにふさわしいだろうか。目を覚ましていましたか、と問われます。

29日（火）士師記 10:16

彼らが自分たちのうちから外国の神々を取り去って、主に仕えたので、主は、イスラエルの苦しみを見るに忍びなくなった。

人は自分の枡で相手を量りますから、神の全知全能や時を越える永遠を理解できません。闇のない世界など想像もつきません。けれども、そのようなわたしたちが神を傷つけたのです。深く痛く。

悔い改めと信仰をもって戻るとき、主はいつでもそこから救う用意を調べておられます。

30日（水）申命記 34:1,4

モーセはモアブの草原からネボ山、エリコに向かい合わせのピスガの頂に登った。主は、彼に次の全地方を見せられた。そして主は彼に仰せられた。「わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに、『あなたの子孫に与えよう』と言って誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたはそこへ渡って行くことはできない。」



申命記はこの章を除くとただ一日の記録です。やっとカナンの入り口にたどりついて、モーセは荒野の38年の旅路を振り返ります。約束の新しい地に入るためです。しかし、モーセはその地に入れてもらえません。

クリスマスは神の約束です。わたしたちは神の約束に生きますが、だからといってそれを当然と思う「権利」ではないことを、「恵みのゆえに信仰によって」と覚えましょう。

12月1日（木）創世記 1:16



神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼をつかさどらせ、小さいほうの光る物には夜をつかさどらせた。また星を造られた。

考えられるであろうか。神は天にきらめく星座を配置され、羊たちの荒野に天の軍勢の賛美、「賛美を住まいとされる方」への賛美を轟かせ、その天を裂いて、ベツレヘムの飼い葉桶に御子を贈ってくださいとは。それが、わたしたちの天の父なのだと。